

# 輸入禁止品輸入許可申請書（植物防疫法施行規則第2号様式）の記載方法

## 輸入禁止品輸入許可申請書

下記のとおり〇〇〇〇〇を輸入したいので許可願いたく〇〇〇植物防疫所を経由して申請いたします。

下表の普通名称と同じ

輸入禁止品の和名(英名)及び学名を記載してください。検疫有害動植物が植物等に寄生している状態で輸入される場合は、その寄主名を括弧に入れ併記するなどしてください。

(例) 和名及び寄生状態(学名)

- ・あずきに寄生したヨツモンマメゾウムシ(Small red bean with *Phaseolus radiatus* var. *aurea*)
- ・ヤノネカイガラムシ及びその寄生蜂 *Unaspis yanonensis* and parasitic wasps
- ・いねに寄生したイネいもち病菌 Rice(又は *Oriza sativa* L.) with *Pyricularia oryzae* Cavara
- ・微生物の付着した植物標本 Plant specimens with micro-organisms

住所 〇〇〇〇  
 職業 〇〇〇〇  
 氏名 〇〇〇〇

申請者の住所地を管轄する植物防疫所(本所)名を記入してください

職業の欄には、〇〇大学〇〇学部〇〇学科(准)教授、(株)〇〇代表取締役、〇〇研究所長等記入してください。詳しくは、「申請者の名義について」を参照ください。

平成〇〇年〇〇月〇〇日

農林水産大臣 〇〇 〇〇 殿

試験等の目的をできるだけ詳細に記載してください。なお、指定微生物株保存機関において、公開分譲を目的として輸入する場合は、その旨を必ず記載してください。

海外出張先等から発送される場合は、研究所、事業所、宿泊所(ホテル等)又は大使館の住所を記載してください。

申請者と同一名義としてください。(住所には郵便番号も記載してください。)

輸送中に輸入禁止品を散逸させないための容器の種類及び包装の方法を記載してください。  
 (例) 〇〇をビニールで二重包装し、プラスチックケースに入れ、密閉したものを使用する。

国別、輸入禁止品別に数量及び梱数を記載し、数量は試験等に必要の最少限としてください。なお、重量については原則として正味重量としますが、正味重量を計算することが困難な場合は「(容器包装を含む。)」と明記のうえ総重量を記載してください。(次頁参照)

輸入禁止品が採取された国名又は地域名を記載してください。

輸送方法(航空小包郵便物、船積小包郵便物、航空貨物(国際宅急便を含む)、船積貨物、携行)等を記載してください。携行する場合は、携行者の職名及び氏名を記載してください。

輸入される輸入禁止品を受け取る(輸入を認可する)植物防疫所名(輸入の際経由する植物防疫所名)を記載して下さい。郵便物の場合は、国際郵便物の通関を行う郵便局を担当する植物防疫所に限定されますので、詳しくは植物防疫所に照会してください。

輸入の予定年月日は、許可指令書の入手に要する日数(約1か月)、輸入許可証票の荷送人への送付、輸入禁止品の発送準備及び輸送に要する日数等を考慮のうえ記載してください。(申請の日から1年以内としてください。)

輸入許可条件に関する重要な事項ですから、輸入禁止品の保管場所、試験の内容及び場所(研究室名等)並びに消毒方法を具体的、かつ、詳細に記載してください。(次頁参照)

※普通名称及び学名	
※数量及び梱数	
※採取地又は産地	
輸送の方法及び経路(郵便物の場合は発送地)	
輸入の際経由する植物防疫所名	
輸入の目的	
※ 発送人の住所・職業・氏名	
※ 荷受人の住所・職業・氏名	
輸入の予定年月日	
輸送中の包装状態	
輸入後の管理方法及び場所	

輸入禁止品の保管及び試験を担当する責任者の機関名、職名、氏名、電話番号、ファックス番号、及び電子メールアドレス等を記載してください。  
(申請者と同一施設の者として下さい)

利用期間及び利用後における処理方法	
輸入後の管理責任者氏名	
その他参考となるべき事項	

備考1 氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

2 ※印の欄には、欧文を併記すること。

利用期間は、目的とする試験等が終了するまでの期間で、6年以内としてください。(試験等の性格上、長期間にわたる場合はその旨を記載してください。)  
利用後における処理方法は、輸入禁止品及び試験等に使用した器具類の消毒方法(高圧殺菌等)又は処分方法(焼却等)を記載してください。(植物、土等から分離した微生物であって、有用植物に対して寄生性のないことの確認を受けたものを微生物保存機関等へ寄託したい場合、試験等終了後研究用として保存したい場合及び輸入禁止品から得られた天敵を利用したい場合等は、その旨を記載してください。)

輸入の際經由する植物防疫所から管理場所へ輸入禁止品の送付を希望する場合は、その送付(輸送)方法、研究機関の過去の研究事例及びその資料、輸入禁止品が特殊なものはその特殊性、今までに輸入許可を得て使用したことのある管理場所を使用する場合はその許可番号、管理責任者が不在時の連絡者及び電話番号、輸入時に輸入の際經由する植物防疫所において土等の消毒を希望する場合は「輸入後直ちに〇〇植物防疫所〇〇支所において、植物防疫官立会いの下に高圧殺菌又はくん蒸を行う。」等参考となる事項を記載してください。

#### <数量及び梱数の記載例>

品目に応じて次のように記載してください。

- ・生果実及びくるみの核子は、種類ごとの重量及び梱数。
- ・生植物及びその部分、いも類の生塊茎又は生塊根は、植物の種類ごと(品種が判明している場合は品種ごと。)の個数及び梱数。
- ・むぎわら及びかもじぐさ属植物の茎葉、いね及びいねわら、もみ及びもみがらは、植物の種類ごと(品種が判明している場合は品種ごと。)の重量及び梱数。
- ・その他の植物(寄生植物を含む。)は、植物の種ごと(品種が判明している場合は品種ごと。)の個数又は重量及び梱数。
- ・昆虫、ダニ、線虫等の検疫有害動物は、種ごとに頭数及び重量並びに梱数。(植物等に寄生している状態のものは、その寄主植物ごとの頭数又は重量及び梱数。)
- ・真菌、粘菌、細菌、ウイルス等の検疫有害植物は、種ごとに試験管等の容器数及び梱数。(検疫有害植物が植物に寄生している状態のものは、その寄主植物ごとの個数又は重量及び梱数。)
- ・土の付着する生植物は、種類ごと(種が判明している場合は種ごと。)に個数又は重量及び梱数。
- ・土又は土の付着するせんたい類、化石等は種類ごと(種が判明している場合は種ごと。)に重量及び梱数。

#### <輸入後の管理方法及び場所の記載例>

管理場所については、〇〇県〇〇市〇〇町〇〇 〇〇研究所〇〇棟〇階〇〇研究室及び〇〇室と記載し、管理方法については、次のように具体的に記載してください。

- ・「〇〇菌の保管は、〇〇室内の冷凍庫で行う。」
- ・「〇〇虫の飼育は二重扉で外部と完全に遮断された〇〇室に設置された飼育箱内で行う。」
- ・「〇〇菌の分離は〇〇研究室の無菌室で行い、培養は〇〇室内の恒温器で行う。〇〇室で形態比較、生理的性質等の検討を次の方法により行う。」
- ・「〇〇菌の生植物への接種試験、〇〇線虫が寄生した〇〇の栽培は、外部への散逸を完全に防止できる〇〇室のバイオロン内でポットを使用し、他の植物と隔離して行う。ポットから流出した灌 waters は収集装置により収集しオートクレーブで120℃ 20分間以上の殺菌、殺虫処理を行う。」
- ・「〇〇の展示は〇〇展示室内に設置した展示容器内で行う。」
- ・「試験中不要となった菌、使用した器具類は、その都度〇〇室のオートクレーブで120℃ 20分間以上の殺菌処理を行う。」